



(122)

小学校中学年向け

年組

本県発「さんぽセル」人気

重いランドセルを軽くしようと、日光市の児童らが「さんぽセル」という商品を生み出した。ランドセルにタイヤや持ち手などを取り付け、キャリーケースのように運べるようにした商品で、体感約90%の重さを軽減できるという。4月に発売され話題となり、現在4カ月待ちの人気ぶりだ。

昨年夏、日光市の山あいにある廃校舎「旧野口小学校」。小学4～6年だった児童6人が訪れた。旧野口小の利活用を検討する地元事業者が「ヒントを得よう」と連れてきた、サッカーチームのメンバーらだった。さんぽセル開発のきっかけは、メンバーの1人の一語。「ここにゲーム部屋を作りたいな」

日光の小学生が発案

た大阪市福島区の企画会社「悟空のきもち THE LABO（ザ ラボ）」で活動する大学3年太田旭さん（21）が、その言葉を耳にする。「自分たちでお金を作る方法を考えてみなよ。何か悩みある？」と問いかけると、児童は「ランドセルが重い」と答えた。「ザ ラボ」は、子どもから望みやアイデアを聞きながら製品を開発する。「ザ ラボ」の大学生に見守られ、児童たちはその場で試作に取り組んだ。材料は校舎にあった椅子やガムテープなど。アイデアは、その日のうちにまとまった。大学生らは、試作品ができる度、児童に試してもらい、改良を重ねた。商品の強度を高めようと、自動車の安全部品などを製作する

体感の重さ90%減

真岡市の「アオキシネット」に協力を依頼するなどし、完成させた。軽量化にこだわりの重さはわずか280グラム。歩道橋や階段では通常のランドセル同様背負える仕様に。タイヤ部分は交換できる。

「さんぽセルを友達にも配りたい」との児童の提案を受け、「ザ ラボ」は5月末、費用捻出のためのクラウドファンディングを開始。わずか2週間で約3500台分の金額が集まったという。

（鈴木祐哉）



さんぽセルを発案した双子の児童。6月下旬、日光市内

設問

【1】重いランドセルを軽くしようと、日光市の児童らが生み出した商品をなんと言いますか。

【2】日光市の児童らが生み出したランドセルは、体感約90%の重さを軽減できるように、どのような工夫をしましたか。

【3】波線部「クラウドファンディング」の説明として、正しいものをア～ウの中から選んで記号を書きましょう。

・ア 物品を多くの人と共有したり、個人間で貸し借りをしたりすること

- ・イ 一度使ったものをごみにしないで何度も使うこと
- ・ウ インターネットで自分の活動や夢を発見し、応援してくれる人から資金を募ること

【4】新聞記事から分かることをまとめた次のア～ウの分を読み、正しいものには○、まちがっているものには×、記事からは分からないものには△を書きましょう。

- ・ア ランドセルを軽くしたいという願いから、日光市の小学生は「さんぽセル」を生み出した。（ ）
- ・イ 文部科学相の末松信介氏は「重くても楽をしてはいけない」と、日光市の小学生が考えた「さんぽセル」に否定的である。（ ）
- ・ウ 小学生の持ち物が重いとの指摘を受け、文部科学省は「置き勉」を認めた。（ ）